様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３３９０２
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１４５４２

研究課題名（和文）食農ラベリング制度の国際比較：地理的表示制度、世界農業遺産、食の世界無形文化遺産

研究課題名（英文）An International Comparative Analysis on Agri-food Labaling Systems: Geographical Indication, GIAHS and World Intangible Cultural Heritage

研究代表者
関根　佳恵（Sekine, Kae）

愛知学院大学・経済学部・教授

研究者番号：９０６１２２４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の実施期間中、研究代表者は国連食糧農業機関(FAO)のローマ本部で客員研究員として1年間を過ごし、イタリアを始め日本、フィリピンで現地調査を実施した。2020年からはコロナ禍の影響を受け、国内外の調査や学会の延期・中止に直面したため、実施期間を2年間延長し、最終的には主に以下の成果をあげることができた：学術論文18本(うち国際誌2本、英文7本、単著13本)、書籍24冊(うち英文2冊、仏文1冊、学術書8冊)、学会・シンポジウム発表40回(うち国際学会・シンポジウム発表18回)。これにより、日本、EU、フィリピンにおける地理的表示制度、世界農業遺産等に関する新たな知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
【学術的意義】日本、イタリア、フィリピンの地理的表示制度や世界農業遺産等の食農ラベリング制度の事例を調査・比較しながら、これらの制度の可能性だけでなく、限界や課題についても批判的に評価を行った点が本研究の学術的貢献である。さらに、人類史的課題になっているサステナビリティの視点から小規模・家族農業やアグロエコロジー等についても研究を拡張したため、今後の農業政策を展望する上で重要な視座を得ることができた。
【社会的意義】本研究のアウトリーチとして、実社会で論争になっている八丁味噌の地理的表示登録をめぐる議論、農業政策における多様な担い手論、およびサステナビリティに関する議論等に重要な視座を提供した。

研究成果の概要（英文）：During the implementation of this research, I spent one year as a visiting fellow at the Rome headquarters of the Food and Agriculture Organization of the United Nations FAO), and conducted field surveys in Italy, Japan, and the Philippines. Since 2020, the COVID-19 pandemic has caused the postponement and cancellation of domestic and international field surveys and conferences. Therefore, the implementation period has been extended for two years. The main outcomes have ultimately been as follows: 18 academic papers (including 2 in international journals, 7 in English, and 13 single authored papers), 24 books (including 2 in English, 1 in French, and 8 academic books), and 40 presentations at academic conferences and symposia (including 18 presentations at international conferences and symposia).The research project provided the new insights on the geographical indication systems in Japan, the EU, and the Philippines, and Globally Important Agricultural Heritage Systems, among others.

研究分野：農業経済学

キーワード：食農ラベリング制度　地理的表示制度　世界農業遺産　世界文化遺産　サステナビリティ　小規模・家族農業　アグロエコロジー　農業政策

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究の計画を申請した 2017 年当時、国際社会では国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択され(2015 年)、新自由主義的グローバリゼーションに対するオルタナティブ(代替案)を模索する各国・地域および主体の動きが食と農の分野においても活発化していた。本研究では、こうした取り組みを支援する制度的枠組みとして当時から注目されていた食農ラベリング制度(地理的表示制度、世界農業遺産、食の世界無形文化遺産)を取り上げ、国際比較研究の対象とした。日本では、2015 年に地理的表示法が制定され、2011 年以降、世界農業遺産の認定を受ける地域が増加しており、2013 年には和食が世界無形文化遺産に登録されていた。本研究では、日本、フィリピン、イタリア、およびフランスの事例を比較しながら、調査研究を実施する計画を立てた。

２．研究の目的

急速に進む市場のグローバル化と農村の構造変動の中で、小規模な家族農業やその伝統的農法、農村の景観、在来品種、食文化の継承が危ぶまれている。持続可能な食料生産・農村経済の発展を目指して制度設計された食農ラベリング制度(地理的表示制度、世界農業遺産、食の世界無形文化遺産)は、こうした危機の打開に貢献できるだろうか。本研究は、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた食農ラベリング制度の可能性と課題、課題の調整メカニズムを明らかにすることを目的とする。調査研究に当たっては、地域農業における小規模・家族農業と大規模・企業的農業の二重構造に着目して分析を行う。

３．研究の方法

2018 年度は、研究代表者が国際連合食糧農業機関(FAO)ローマ本部の客員研究員としてイタリアに滞在し、資料収集、先行研究および統計データの整理、FAO、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)等の専門家に対する専門家インタビューを実施した。また、イタリアにおける地理的表示制度、スローフード協会のプレシディオ認証、山地ラベルの制度とその事例地域に関する調査を実施した(表 1)。

2019 年度は帰国し、日本の地理的表示制度に関する調査を行うとともに、フィリピンの地理的表示制度、世界農業遺産、および世界無形文化遺産であるルソン島北部の先住民居住地イフガオの棚田地域で調査を実施するとともに、関係行政機関および国連事務所で聞き取りを行った。また、国内では徳島県で世界農業遺産に登録されている「にし阿波傾斜地農耕システム」の調査を実施した。

2020 年から 2021 年はコロナ禍で国内外の調査を実施することができず、国内外の学会・研究集会も中止や延期になったため、調査対象事例および研究計画を一部変更した。コロナ禍の間はオンライン会議ツールを活用してフランスやブラジル等における有機給食に関する海外調査を実施した。

2022 年度から国際学会での研究発表を、2023 年度から国内の調査を再開し、主に北海道における小規模・家族経営の酪農におけるアニマルウェルフェア、放牧、JAS 有機認証等の研究を実施した。

表１　本研究における事例一覧

食農ラベリング制度	国	対象
地理的表示制度(GI)	日本 フィリピン イタリア	西尾の抹茶、八丁味噌、くまもとあか牛 フィリピン・コルディリェーラの伝統米 アグロ・サルネーゼ・ノチェリーノ産のサンマルツァーノ・トマト、パルミジャーノ・レッジャーノ(チーズ)、モルタデッラ・ボローニャ(ソーセージ)、ファジョーリ・ディ・ソラナ(インゲン豆)
世界農業遺産(GIAHS)	日本 フィリピン	にし阿波傾斜地農耕システム イフガオの棚田
食の世界無形文化遺産	フィリピン	コルディリェーラの棚田群
その他 プレシディオ	イタリア	ナポリの伝統的トマト品種、パルミジャーノ・レッジャーノ(ホワイト・モデネーゼ種、チーズ)、モルタデッラ・ボローニャ(ソーセージ)、ファジョーリ・ディ・ソラナ(インゲン豆)
山地ラベル	FAO・EU・イタリア	パルミジャーノ・レッジャーノ(チーズ)
アニマルウェルフェア	日本	北海道の牛乳・乳製品
放牧畜産基準認証	日本	同上
JAS 有機認証	日本	同上

有機給食	日本、アメリカ、ブラジル、フランス、韓国	各国・地域(自治体)の有機農産物・食品の公共調達制度

４．研究成果

6年間の国際比較研究を通じて、本研究では持続可能な食と農のあり方に貢献するように設計されたはずの食農ラベリング制度であっても、制度設計を行う主体(Regulator)、媒介・実施主体(Intermediary)、および認証の対象主体(Target)の間で制度の「翻訳」(Translation)が生じることが多々あり、当初の目標とは異なる結果が生まれる可能性があることを実証した(Sekine 2021; 2022)。この「翻訳」が生じる場合、そこには国家(Intermediary)の政策や政府の政治的イデオロギー、多国籍企業・大企業等の影響力、近代的農業政策や産業政策、およびそれらを支える効率性の評価指標等が介在していることが明らかになった(関根 2024)。これらの傾向は、地理的表示制度、世界農業遺産、世界文化遺産の認証において認めることができた。

他方で、食農ラベリング制度が陥りがちな上記の「翻訳」に伴う弊害を抑制、あるいは脱するために、スローフード協会によるプレシディオ認証、山地ラベル、アニマルウェルフェア、放牧畜産基準認証、JAS有機認証、有機給食(公共調達)等の取り組みが各国・地域で展開していることも本研究から明らかになった(Bonanno et al. 2019; 関根 2020; 2021; 2022; 2023)。すなわち、食農ラベリング制度がアプリオリに持続可能な食と農や小規模・家族農業、中小零細規模の食品事業者やその伝統的農法、農村の景観、在来品種、食文化等の継承に帰結するわけではなく、そこに介在する権力構造や対立軸を見極め、不断に制度の点検・評価と見直しを実施する必要がある。換言すれば、農と食の民主主義が問われている。

食農ラベリング制度の課題の調整メカニズムは、ときに市民社会団体等によるオルタナティブな認証制度(プレシディオ認証、アニマルウェルフェア認証、放牧畜産基準認証)、および既存の食農ラベリング制度を補完・強化する認証制度(山地ラベル、有機認証)等によって調整されるだけでなく、八丁味噌の地理的表示登録をめぐる問題のように、ときに司法による調整を必要とする(Bonanno et al. 2019; 関根 2020; 2021; 2022; 2023; 2024)。しかし、これらの調整は持続可能な食と農のあり方に帰結することを保障していないこともまた、本研究から明らかになった。

参考文献

Bonanno Alessandro, Kae Sekine, Hart N. Feuer (Eds.)(2019) Geographical Indications and Global Agri-Food: Development and Democratization, Routledge (Earthscan Food and Agriculture)

関根佳恵(2024)「地域経済循環の構築における地理的表示制度の可能性と課題―愛知県の八丁味噌を事例として―」『愛知学院大学論叢 経済学研究』11(2): 23-38

関根佳恵(2023)「農産物・食品の山地ラベル認証制度の国際的展開と課題―国連食糧農業機関と欧州連合の取り組みを事例として―」『愛知学院大学論叢 経済学研究』10(1): 55-69

Sekine Kae (2022) “Challenges to conserve world agricultural heritages in a market economy: Experiences in Nishi-Awa, Japan” International Sociology, 37(6): 648-675

関根佳恵(2022)「世界における有機食材の公共調達政策の展開―ブラジル、アメリカ、韓国、フランスを事例として―」『有機農業研究』14(1): 7-17

Sekine Kae (2021) “The Potential and Contradictions of Geographical Indication and Patrimonization for the Sustainability of Indigenous Communities: A Case of Cordillera Heirloom Rice in the Philippines” Sustainability, 13(8): 4366

関根佳恵(2021)「持続可能な社会の構築における食農ラベリング制度の役割と課題 ―伊トスカーナ地方のソラナ豆を事例として―」『立命館食科学研究』3: 89-104

関根佳恵(2020)「食農ラベリング制度を活用したイタリア産トマトの新たな挑戦―SDGs 時代への対応―」『野菜情報』(190): 61-70

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 Sekine Kae、Masuda Tadayoshi、Takashino Nina	４．巻 60
２．論文標題 Scaling up Agroecology from Policies to Practices: Emerging Policies and Contradictions in the Global North	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Journal of Rural Problems	６．最初と最後の頁 35～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7310/arfe.60.35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 関根　佳恵	４．巻 11
２．論文標題 地域経済循環の構築における地理的表示制度の可能性と課題―愛知県の八丁味噌を事例としてー	５．発行年 2024年
３．雑誌名 愛知学院大学論叢 経済学研究	６．最初と最後の頁 23～38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34513/0002000255	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荒井　聡、関根　佳恵	４．巻 32
２．論文標題 食料・農業・農村基本法の見直しー持続可能で公正な農と食のあり方にむけてー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 農業市場研究	６．最初と最後の頁 1～4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Maharjan Keshav Lall、Masuda Tadayoshi、Sekine Kae	４．巻 59
２．論文標題 Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities Based on Interdisciplinary Approaches: Part 2	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Journal of Rural Problems	６．最初と最後の頁 29～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7310/arfe.59.29	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 関根 佳恵	4．巻 10
2．論文標題 農産物・食品の山地ラベル認証制度の国際的展開と課題 ―国連食糧農業機関と欧州連合の取り組みを事例として―	5．発行年 2023年
3．雑誌名 愛知学院大学論叢．経済学研究 = THE KEIZAIGAKU KENKYU : THE AICHI GAKUIN ECONOMIC REVIEW	6．最初と最後の頁 55～69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34513/00003942	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sekine Kae	4．巻 37
2．論文標題 Challenges to conserve world agricultural heritages in a market economy: Experiences in Nishi-Awa, Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 International Sociology	6．最初と最後の頁 648～675
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/02685809221108623	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 関根 佳恵	4．巻 14
2．論文標題 世界における有機食材の公共調達政策の展開：ブラジル，アメリカ，韓国，フランスを事例として	5．発行年 2022年
3．雑誌名 有機農業研究	6．最初と最後の頁 7～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24757/joas.14.1_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sekine Kae	4．巻 13
2．論文標題 The Potential and Contradictions of Geographical Indication and Patrimonization for the Sustainability of Indigenous Communities: A Case of Cordillera Heirloom Rice in the Philippines	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Sustainability	6．最初と最後の頁 4366～4366
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su13084366	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Maharjan Keshav Lall、Sekine Kae、Masuda Tadayoshi	4．巻 58
2．論文標題 Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities Based on Interdisciplinary Approaches	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Rural Problems	6．最初と最後の頁 27～30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7310/arfe.58.27	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 13(2)
2．論文標題 小規模・家族農業の優位性：新たな経営指標の構築と農政転換	5．発行年 2021年
3．雑誌名 有機農業研究	6．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sekine Kae	4．巻 23
2．論文標題 Farming Systems and Operations Contributing to a Sustainable Society and Their Multi-Dimensionality：An Essay at Planning Scenarios for Japan in 2040	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6．最初と最後の頁 47～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18480/jjae.23.0_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 3
2．論文標題 持続可能な社会の構築における食農ラベリング制度の役割と課題 ―伊トスカーナ地方のソラナ豆を事例として―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 立命館食科学研究	6．最初と最後の頁 89-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Aurelie Fernandez ， Bin Liu ， Andrea Polo Galante ， Sibylle Slattery ， Kae Sekine ， Raffaella Ponzio ， Chiara Palandri ， Yael Pantzer ， Maria Teresa Barletta ， Graham Martin	4．巻 1
2．論文標題 Globally Important Agricultural Heritage Systems, Geographical Indications and Slow Food Presidia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 FAO Technical Note	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 関根 佳恵	4．巻 190
2．論文標題 食農ラベリング制度を活用したイタリア産トマトの新たな挑戦―SDGs時代への対応―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 野菜情報	6．最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 709
2．論文標題 手仕事の時代	5．発行年 2018年
3．雑誌名 婦人通信	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 26
2．論文標題 世界で高まるローカルフードへの関心	5．発行年 2018年
3．雑誌名 名古屋コーチンプレス	6．最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 7
2．論文標題 食農ラベリング制度がめざすもの	5．発行年 2018年
3．雑誌名 農業共済新聞	6．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 関根佳恵	4．巻 42
2．論文標題 百姓オブザワールド　イタリア・プーリア州ファザーノ市　ウッチョ・ドンナロイアさん	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ハリーナ	6．最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計40件（うち招待講演　33件／うち国際学会　15件）

1．発表者名 関根　佳恵、中野　優子
2．発表標題 国際的潮流から農業経済学のミッションを考える:持続可能な社会へのトランジションにむけて
3．学会等名 日本農業経済学会 学会創立100周年記念大会 特別シンポジウムⅠ（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 Kae Sekine
2．発表標題 Scaling up Agroecology from Policies to Practices: Emerging Policies and Contradictions in the Global North
3．学会等名 2023年度地域農林経済学会国際シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2023年

１．発表者名 荒井　聡、関根　佳恵
２．発表標題 座長解題 食料・農業・農村基本法の見直しー持続可能で公正な農と食のあり方にむけてー
３．学会等名 日本農業市場学会 2023年度大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Animal Welfare Struggles in Japan: Analyses on External Pressures and Internal Incentives
３．学会等名 RC40 Session on Good Farm Animal Welfare in Sustainable Food Systems, 20th World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 持続可能な社会に資する農業経営体とその多面的価値―小規模・家族農業によるアグロエコロジーへの展望―
３．学会等名 アジア農業経済学会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 多国籍アグリビジネスによるオルタナティヴの盗用 ―新たな規制枠組み構築の可能性と課題―
３．学会等名 日本平和学会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 農と食のサステナビリティを考える―小規模・家族農業とアグロエコロジーを中心に―
３．学会等名 なごや環境大学 SDGsアソシエイト養成プログラム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 持続可能な農と食への展望―アグロエコロジーと小規模・家族農業―
３．学会等名 日本農業法学会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kae SEKINE
２．発表標題 The Embracing of "Family Farming" by Different Stakeholders: Agri-food Policies in Japan in the Era of SDGs
３．学会等名 International Rural Sociology Association（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Stephane FOURNIER ， Hart N. FEUER ， Aaron J. Kingsbury ， Kae SEKINE
２．発表標題 Novel conditions or just new paths for re-territorialization through Geographical Indication: Case study of Yamanashi wine GI in Japan
３．学会等名 International Perspectives on Geographical Indications（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kae SEKINE, Hart N. FEUER
２．発表標題 Seeking Social Legitimacy of Wagyu in the Transition towards a Sustainable Agri-Food System: Evolution of Policy and Practice in Japan
３．学会等名 International Seminar of Tours: Law, Territories & Gastronomy in France and Japan（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 国際的に見直される小さな農業―国連「家族農業の10年」に学ぶ―
３．学会等名 世界農業遺産 にし阿波傾斜地農耕システム 国際「家族農業の10年」に学ぶにし阿波ユースシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 日本の食品ロスの現状と課題―SDGsとの関係から学ぶ―
３．学会等名 第191回 愛知学院大学 モーニング・セミナー（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 小規模・家族農業の可能性ーアグロエコロジカルな農業への転換をめざしてー
３．学会等名 中部農業経済学会 大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 有機給食と公共調達をめぐる世界の潮流―EUを中心として―
３．学会等名 日本有機農業学会　公開シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 EUにおける有機農業の研究・革新と普及
３．学会等名 有機農業研究者会議（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sekine Kae
２．発表標題 UN Decade of Family Farming and Civil Society Movements in Japan
３．学会等名 FAO International Symposium on GIAHS and Family Farming（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sekine Kae
２．発表標題 Discussions for Enabling Agroecological Transformation
３．学会等名 2021 ARAFE International Symposium Co-sponsored by JSOAS（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Challenges to Conserve World Agricultural Heritages in Market Economy: Experiences in Japan
３．学会等名 4th International Sociological Association Forum, Session on Governing Value(s) and Organizing through Standards（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 EUにおける有機農業の研究・革新と普及
３．学会等名 有機農業研究者会議2021（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 有機給食と公共調達をめぐる世界の潮流―EUを中心として―
３．学会等名 日本有機農業学会　公開シンポジウム「今なぜ、有機学校給食なのか？―国内外の事例から考える―」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 小規模農業の優位性―「多様な農業の共存」論の批判的検討―
３．学会等名 2020年度日本有機農業学会社会科学系テーマ研究会「有機農業と現代の小農・家族農業の関係を問う」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 地理的表示制度改善の方向性ーGI八丁味噌の登録をめぐる問題を契機としてー
３．学会等名 第5回オーガニックライフスタイルEXPO・第1回SDGsライフスタイルフォーラム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 地理的表示の制度と課題ー地域の伝統食と食の工業化ー
３．学会等名 第5回オーガニックライフスタイルEXPO・第1回SDGsライフスタイルフォーラム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Taste Washoku to Unveil Japanese Society: Encountering with Wagyu and Matcha
３．学会等名 Conference of the Association for Asian Studies in Asia “Asia at the Crossroads: Solidarity through Scholarship”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sekine Kae
２．発表標題 Seeking High-level Authenticity by Emergent Matcha Producers: The Case of GI “Nishio Matcha” in Aichi Prefecture, Japan
３．学会等名 International Symposium "From Local to Global, the Challenge of Geographical Indications: International and Japanese Perspectives" in Nagoya University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 持続可能な社会に資する農業経営体とその多面的価値
３．学会等名 日本農業経済学会2020年大会シンポジウム(オンライン)（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 国連の家族農業の10年と持続可能な社会への移行
３．学会等名 農業・農協問題研究所 第96回研究例会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 在外研究報告 在ローマ国連食糧農業機関(FAO)の客員研究員を終えて―イタリアの食農ラベリング制度の研究を中心に―
３．学会等名 愛知学院大学 産業研究所 定例研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 持続可能な食をもとめて―国連SDGsと食・農の関係とは―
３．学会等名 第2回 農林水産省東海農政局 官学合同シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Japanese Geographical Indications toward Sustainable Rural Development
３．学会等名 FAO GIAHS GI Study Session（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Stakeholders along Value Chain of Geographical Indication Products
３．学会等名 Roundtable on Geographical Indications and Local Development by FAO and World Food Law Institute of Howard University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 大会シンポジウム・コメント：国際農政の大転換といかに向き合うか
３．学会等名 日本農業経済学会2019年度大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 国連「家族農業の10年」の世界行動計画―日本の行動計画策定にむけて―
３．学会等名 アグリテック・フードテック・サミット2019（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 持続可能な農と食の実現にむけた取り組み―国連の家族農業の10年とアグロエコロジーを中心に―
３．学会等名 特別講義 台湾国立屏東科技大學（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 関根佳恵
２．発表標題 国連家族農業の10年に考える―持続可能な社会を目指して―
３．学会等名 食料フォーラム 国連家族農業の10年に考える―持続可能な社会を目指して―（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 The Impact of Geographical Indications on the Power Relations between Producers and Agri-Food Corporations: A Case of Powdered Green Tea "Matcha"in Japan
３．学会等名 19th World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Ways in which Artisans of Miso Can Survive under the Geographical Indication System: Lessons from Japan
３．学会等名 6th Forum Origin, Diversity and Territory（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kae Sekine
２．発表標題 Challenges of Geographical Indications for Sustainable Food Systems: Lessons from Japan
３．学会等名 The Seminar of Nutrition and Food System Division, FAO on "Status and Challenges of Geographical Indications for Sustainable Food Systems: Experiences from Cambodia and Japan"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hart Feuer and Kae Sekine
２．発表標題 Differentiating the layers of agri-food locality: The politics of Geographical Indications in Japanese high-grade beef
３．学会等名 Symposium of the German Institute of Japanese Studies on "What is the “ local ”? Rethinking the politics of subnational spaces in Japan"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計24件

１．著者名 玉真之介 ， 草刈仁 ， 木村崇之 ， 編	４．発行年 2023年
２．出版社 筑波書房	５．総ページ数 231
３．書名 農業基本法2.0から3.0へ：食料、農業、農村の多面的価値の実現に向けて	

１．著者名 加藤光一，武本俊彦，斎藤順，平賀緑，関根佳恵	４．発行年 2023年
２．出版社 農山漁村文化協会	５．総ページ数 149
３．書名 農業法研究 58 持続可能な食と農のシステムを問う	

1．著者名 松原豊彦，冬木勝仁，編著	4．発行年 2023年
2．出版社 筑波書房	5．総ページ数 271
3．書名 世界農業市場の変動と転換	

1．著者名 靏理恵子，谷口吉光，編	4．発行年 2023年
2．出版社 農山漁村文化協会	5．総ページ数 200
3．書名 有機給食スタートブックー考え方・全国の事例・Q&Aー	

1．著者名 Pierre Gasselin ， Sylvie Lardon ， Claire Cerdan ， Salma Loudiyi ， Denis Sautier (Eds.)	4．発行年 2023年
2．出版社 Springer	5．総ページ数 331
3．書名 Coexistence and Confrontation of Agricultural and Food Models: A New Paradigm of Territorial Development?	

1．著者名 関根　佳恵	4．発行年 2023年
2．出版社 農山漁村文化協会	5．総ページ数 152
3．書名 ほんとうのサステナビリティってなに？	

１．著者名 大森　佐和、西村　幹子	４．発行年 2022年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 224
３．書名 よくわかる開発学	

１．著者名 日本婦人団体連合会	４．発行年 2022年
２．出版社 ほるぷ出版	５．総ページ数 336
３．書名 女性白書2022	

１．著者名 新山陽子，関根佳恵，清原昭子，鬼頭弥生，工藤春代	４．発行年 2022年
２．出版社 一般社団法人 放送大学教育振興会	５．総ページ数 280
３．書名 改訂版 フードシステムと日本農業	

１．著者名 関根佳恵	４．発行年 2022年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 32
３．書名 家族農業が世界を変える―多様性ある社会をつくる―	

１．著者名 関根佳恵	４．発行年 2021年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 32
３．書名 家族農業が世界を変える―貧困・飢餓をなくす―	

１．著者名 関根佳恵	４．発行年 2021年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 32
３．書名 家族農業が世界を変える―環境・エネルギー問題を解決する―	

１．著者名 冬木 勝仁、岩佐 和幸、関根 佳恵	４．発行年 2021年
２．出版社 筑波書房	５．総ページ数 285
３．書名 アグリビジネスと現代社会	

１．著者名 農文協	４．発行年 2021年
２．出版社 農山漁村文化協会	５．総ページ数 136
３．書名 どう考える？「みどりの食料システム戦略」	

１．著者名 関根　佳恵	４．発行年 2021年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 32
３．書名 貧困・飢餓をなくす	

１．著者名 関根　佳恵	４．発行年 2021年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 32
３．書名 環境・エネルギー問題を解決する	

１．著者名 関根佳恵	４．発行年 2020年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 144
３．書名 13歳からの食と農―家族農業が世界を変える―	

１．著者名 石井正子編	４．発行年 2020年
２．出版社 コモンズ	５．総ページ数 385
３．書名 甘いバナナの苦い現実	

1．著者名 澤登早苗・小松﨑将一編著、日本有機農業学会監修	4．発行年 2019年
2．出版社 コモンズ	5．総ページ数 330
3．書名 有機農業大全―持続可能な農の技術と思想―	

1．著者名 日本農業経済学会編	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 804
3．書名 農業経済学事典	

1．著者名 日本婦人団体連合会編	4．発行年 2019年
2．出版社 ほるぷ出版	5．総ページ数 311
3．書名 女性白書2019―女性差別撤廃条約40周年―世界と日本の到達・課題	

1．著者名 小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン	4．発行年 2019年
2．出版社 農山漁村文化協会	5．総ページ数 112
3．書名 よくわかる国連「家族農業の10年」と「小農の権利宣言」	

１．著者名 Bonanno Alessandro, Sekine Kae, and Feuer N. Hart	４．発行年 2019年
２．出版社 Routledge (Earthscan Food and Agriculture)	５．総ページ数 254
３．書名 Geographical Indications and Global Agri-Food: Development and Democratization	

１．著者名 コノー・J・フィッツモーリス;ブライアン・J;ガロー著、村田武、レイモンド・A・ジュソーム・Jr.監訳	４．発行年 2018年
２．出版社 筑波書房	５．総ページ数 280
３．書名 現代アメリカの有機農業とその将来―ニューイングランドの小規模農業―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://www.fao.org/3/cb1854en/cb1854en.pdf

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 Meeting of the International Working Group on Japanese Products of Origin	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The Seminar of Nutrition and Food System Division, FAO on "Status and Challenges of Geographical Indications for Sustainable Food Systems: Experiences from Cambodia and Japan"	開催年 2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関